



日本クリスチャン・アシュラム連盟

日本アシュラム

アシュラムとはスタンレー・ジョーンズ師がインドの退修方式を取り入れて創設されたキリストの新しい祈禱運動である。

開心 ・ 静聴 ・ 充滿 ・ 献身 ・ 奉仕

〒 165-0027 東京都中野区野方 1-55-1 天門教会内 日本クリスチャン・アシュラム連盟 振替口座 東京 00100-1-4558

杖ー神が共に



日本基督教団隠退牧師

有馬 歳弘

モーセは80歳にして神様から召命を受けた時、何度も何度も辞退しました。自分にはできるだろう、無理だと、思う他はなかったのでしょう。モーセは自分を見ていました。それでも神様はそれに勝って忍耐強くモーセを招かれました。「わたしは必ずあなたと共にいる」と。「あなたはこの杖を手に取って、しるしを行うがよい。……モーセは、妻子をろばに乗せ、手には杖を携えて、エジプトの国を指して帰って行った」と記されています。人はターニング・ポイント（転機）を経験します。彼の手にした杖、それはバックボーンと言ってもいいのではないかと思います。神が共におられ、神と共に生かされる道です。モーセは杖を持った人になりました。エジプトから同胞イスラエルの民を解放に導き、荒野の40年に亘つてこの杖を手にしていたでしょう。水に渴いて、不平を言う群れ。飢えに苦しんでエジプトにいた方がよかつたと咳く群れ。山で40日間の祈りのなかで「十戒」を与えられて帰ってみると、アロンを巻き込んで偶像が造られて大騒ぎです。そんな群れを率いて荒野を旅しました。彼はその杖を離すことはなかった。多くの困難を経験しつつも、常に必要・ニードに向き合った。そして前進しました。荒野は神が働く恵みの日々でありました。

私たちがまたターニング・ポイントを経験しています。信仰を得て洗礼を受けた時と思っている人もあるでしょう。あるいは、信仰生活の中で更に深みに導かれ霊的体験

をしたことがターニング・ポイントとなっている人もおられるでしょう。

私の場合は「自分の命を救いたいと思う者は、それを失うが、わたしのために命を失う者は、それを救うのである」(ルカ9:24)のみ言葉との出会いでした。

アフガニスタンで最大級の敬意を受けた医師、中村哲さんは2019年12月4日凶弾に倒れました。中村さんは言います。「野の花を見よ。……栄華を極めたソコモンも、その一輪の装いに如かざりき。『汝らの恵みは備えられて在り。暖衣飽食を求めず、ただ道を求めよ。天は汝らと共におわします。』そう読めたのだ。『天、共に在り』をヘブライ語で『インマヌエル』という。」と。これは中村さんの手にした「杖」です。千六百を越える井戸を掘り、作物の育たなかつた干ばつの大地が小麦畑にのみがえっていく。難民は、生活ができるところに帰って来る。更に砂漠に25kmに及ぶ水路によって緑の大地を生み出した。現地の病気と死亡率は不衛生による。綺麗な水を求め、難民となった人びとの生活を取り戻す緑化活動を続けられた。必要は膨らんで行く。「天、共に在り」はこの方のバックボーンである。働き人を得、後援会の支援もあった。「平和を造り出す人は幸いである」「御心が行われますように、天におけるように地の上にも」のみ言葉が聞こえてくるようにです。

霊 想

本国は天にある

(フィリピ書3章17〜27節)



日本基督教団隠退牧師

島 隆 三

キリスト者はこの世においては仮住まいであり、寄留者であることは、旧約から新約に一貫して流れている思想であり信仰です。本国は天にあるのです。本国は天にあるという信仰は、地上では具体的にどうい生活になるのかをフィリピ書のみ言葉をいくつかピックアップして確認したい。

第一に、3章20節の本国が天にある生活とは、再臨の主を待ち望む生活です。これは一章ですでに「あなた方の中で善い業を始められた方が、キリスト・イエスの日までに・・・」(6節)とある「キリスト・イエスの日」、それは再臨の日のことだ。私たちはその日を目指して歩む(1章10節)。

第二は、1章21節「わたしにとって、生きるとはキリストであり、死ぬことは利益なのです。」安倍豊造師は、晩年、前大戦中の弾圧を回顧して、「自分はある弾圧のときに死ぬべきだった、小山宗祐師や小出朋治師のように殉教したかった」と漏らされた。もちろん、戦後の復興のために師には使命があったから神に生か

されたのだが、パウロのように殉教の死を願うほどにこの世に未練がないのが安倍先生の信仰だった。師も「生きることはキリスト、死ぬことは利益」という思いで一生を生き抜いた。

第三は、2章12節「恐れおのきつつ自分の救いを達成するように努めなさい。」私たちが救ってくださるのは主イエス・キリストであって、決して自分の力ではない。では、私たちはボートとして何もしていないのか。そんなはずはない。地上の教会は「戦いの教会」だ。精一杯戦って信仰を全うしたい。

第四は、3章8節「わたしの主キリスト・イエスを知ることのあまりのすばらしさに・・・キリストのゆえに、わたしはすべてを失ったが、それらを塵あくと見なしています。」三章はパウロの自己紹介で、最も気心を許すフィリピの信徒たちに真情を吐露したところ。パウロはフアリサイ派の優等生として、ユダヤ人なら誰しも自慢したくなるような誇りをいくつも持っていた。しかし、主イエスを信じ、その弟子になって、それらのすべてを失った。しか

し、それらを塵あくと見なしている、かつては自分にとってプラスであったことがマイナスに見えるようになったというのです。

ウエスレーもそうだった。オックスフォード大学の秀才で、地方の教会の司祭から大学に呼び戻された。大学教会のチャペルでの彼の説教は評判になった。しかし、彼はそれらを投げ捨てて新大陸アメリカの伝道に出かけ、ついに長い間求めていた救いの確信を得るや、彼の説教がまた一段と変わり、捨て身の路傍伝道で炭鉱夫や労働者に説教する。それがメソジストリバイバルへと発展していく。彼は人々がキリストの福音を信じて本当に変わっていく姿を見て、その他のことにあまり価値を感じなくなつた。かつてはオックスフォードの秀才とうたわれた彼が、そんなことは取るに足りないことと感じた。パウロのこの告白に最も深く共鳴した一人となつた。

第五は、3章14節「(神からの)賞を得るために、目標を目指してひたすら走ることです。」キリストの福音の素晴らしさに目が開かれてくると、この世のことは色褪せていき、神様が大きくなってくる。「忠実な僕、よくやった」の一言が人生の目標になる。私たちの本国は天にあります。

アシラムの恵みとかわり



池の上キリスト教会

石井 寛

九州アシラムの恵み

九州アシラム 委員長

大分恵みキリスト教会

牧師 岡山敦彦



います。

五十年近く前の事かと思えます。池の上キリスト教会創立者、山根可弼師に連れられ参加したのが「関東アシラム」でした。若かった私にとつて、また、キリスト者として未熟な者には何が始まるのか不安の一面もありました。進められるプログラムは戸惑うばかりでありましたが、昼前に「労作の時」が持たれ、突然、参加者中一番若かったであろう自分に「パロ王」の任が命じられました。そして参加者一同で奥多摩古里の宿舎を清掃することとなりました。そのこと以来、教会全体が「アシラムの教会」として歩む中、城北アシラム、関東アシラムには、ほぼ参加するようになりました。

時は過ぎて、四十五歳の時、「教会献身者」としてフルタイムの働き人として、牧師を支え、新会堂建設、また、移転という大きな仕事にかわり始めました。三〇〇坪という広い敷地に延床面積四八〇坪という、考えも及ばない規模の新会堂建設の中で、与えられた使命をどのよう自分の仕事としていったら良いかも分からない中、がむしゃらに生きてきたことを覚えています。しかし、疲れ切ってしまったたり、様々

な課題に押し潰されそうになったときに与えられた「わたしに仕えるというなら、その人はわたしについてきなさい。…」(ヨハネ12章26節)のみ言葉がいつも私を励ましてくれました。

山根可弼師がよく「今朝与えられたみ言葉は、これこれ：」といつもみ言葉を中心にお話しされました。十数年前、前任者島津牧師が「今年から、毎日与えられた聖書のみ言葉をノートに書き記し、週一回提出してください」と教会員にお勧めしてくださいました。私を含め二十人くらいの者がそれに応え、そして今も続けているのが「静聴ノート」です。私は、それ以前は聖書は拾い読みで、何十年たつても聖書全巻を通読したことがありませんでした。しかし、一日に旧新約聖書一章ずつ読むようになり、すでに旧約は五〜六回、新約に至つては毎年二回ほどの通読をさせていただいています。

み言葉が自分を献身に導き、み言葉によって日々の仕事の働きに励んでいます。長く務めアシラム連盟の事務局の働きを後継者にお渡しするために今、み言葉によって祈り、そのみ言葉をもって確信へと導いてくださるよう求めて

神様は数え切れないほどの恵みを九州アシラムに与えてくださいました。

第一に、今年(二〇二〇年九月)の九州アシラムは五十五回目を迎えます。超教派の働きとして、歴代の先生方が素晴らしい働きをしてくださいました。既に何人もの先輩の先生方は天に帰られました。前委員長の鍋倉先生は、今も夫人と共に参加してくださいっています。私は、及ばずながら事務局と委員長の仕事に長年にわたり務めさせていただいています。

第二は、参加してくださる方たちです。各教団・教派から毎回二十五名前後の兄弟姉妹が参加してくださいます。既に天に帰られた方たちも多くおられますが、毎回楽しみに参加してくださる方たちもおられます。一年一度ですが、再会を楽しみにしています。

第三は、一昨年、昨年とアシラムセンター

主管牧師の榎本恵先生を助言者としてお迎えできたことです。九州アシラムだけでなく、関東アシラムでも榎本先生は奉仕してください。日本クリスチャン・アシラム連盟とアシラムセンターの協力関係が深まっていることは感謝なことです。また、アシラムセンターの福岡聖書教室の方たちも九州アシラムに参加してください。このように協力関係が深まっていることは、感謝なことです。

最後に、これからのアシラム運動の課題も祈っていかねばなりません。参加者の高齢化が進み、若者が少ないことです。もう一つは、会場として使用してきまじしたカトリック福岡・黙想の家（福岡県宗像市）が今年を最後に閉鎖されるため使用できなくなり。アシラムにふさわしい会場を主が準備してください。信じています。



「インド・サトタルへの旅」の中止と

事務局移転について全国理事会開催

日本クリスチャン・アシラム連盟全国理事会は二年に一度の開催をしています。理事会はアシラム全体を把握し、各地のアシラム推進を図るため、祈りとともに運営されています。

お知らせしていましたアシラムセンターとの共同企画「インド・サトタルへの旅」の中止、そして事務局移転に関して急遽一月二三〜二十四日、池の上教会で開催されました。北海道から九州の各地から11名の理事の先生方が出席してください。礼拝を守り、議事を重ねました。インドの旅は参加予定者が少なく、止む無く中止とさせていただきます。また、アシラム事務局として、池の上教会の総務主事の働きの合間に長年奉仕してくださいました石井寛兄が健康上の理由で教会での働きを退き、九州に転居されることになりました。そして後任として、天門教会牧師、貴村かたる師がその任を、主によって示され、お受けいただけることとなりました。これからの事務局としてのお働きのためにお祈り下さい。

第51回城北アシラム開催

二月十一日、毎年この日は城北アシラムを東京城北地域（池の上、更生、新宿西、天門）各教会持ち回りで開催しています。今年は新宿

西教会が会場教会として準備してください。55名の参加者がありました。

福音の時には深谷春男師がイザヤ書43章を通して「I love you」というユニークなタイトルで語ってくださいました。最後の充満の時は93歳になられる横山理事長が祝福をしてください、閉会となりました。



第51回城北アシラム 2020.2.11 新宿西教会

アシラム予告

- 5月30日 西川口教会 助言者 島 隆三師
- 6月 浦和別所教会 仙台青葉荘教会
- 7月 横浜岡村教会
- 9月21〜22日 九州アシラム 9月21〜23日 関東アシラム
- 10月 関西アシラム 東京新生教会
- 11月3日 函館栄光教会

編集後記

主の十字架を突然負わされたクレネのシモンのごとく、このアシラムの事務局の働きを負って11年。しかし、教会でのアシラム経験が50年近くあったことゆえに継続することができました。事務局移転、その働きをお受けくださった天門教会、そして、貴村かたる先生を覚えてご支援ください。